第１回 小郡市まち・ひと・しごと創生有識者会議 要録

日　　時：令和６年７月１２日（金）午後３時００分～午後４時４５分

会　　場：小郡市役所 本館３階大会議室

出 席 者：委　員　宮本 明子、片根 暢宏、中塩 浄仁、小川 絵美、三宅 淳司、
安丸 一宏、鶴田 早紀、中島 佳奈美、大久保 誠子、山下 永子、
山下 舞桜、大中 久俊（座長）
（欠席：谷 彩花 ）

事務局　坂本経営戦略課長、丸山移住・定住担当企画主査、
山本政策推進係長、佐々木行政実務研修員

議 題（１）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の効果検証

（２）第２期小郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

（３）小郡市の人口動態について

（４）第３期総合戦略の策定について
デジタル田園都市国家構想総合戦略（内閣府策定）について

議 事 要 旨

開 会

議題（１） デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の効果検証

※事務局から、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の事業の内容・経費・KPI、「恋人の聖地」広域市町村連携によるデジタル・シティプロモーション事業の実施について説明

（委　員）「恋人の聖地」の成果指標について、各年度の実績値が基準値からの差なのか、目標値からの差なのか数字の見方が分からない。
（事務局）令和 2 年の 774 万人が基準値となっている。実績は各年度の目標値に対しての達成率を表している。

（委　員）目標値が令和 6 年度、7 年度で下がっているのは、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で観光入り込み客数がかなり沈んでいたが、令和 5 年度にはある程度回復が見込めて、今後大幅にはもう増えないとして、目標値を低めに設定しているという認識であっているか。
（事務局）認識のとおり。

（委　員）3 点伺いたい。1 点目は連携中枢都市圏の基準値を教えてほしい。また、全体の数値ではなく、小郡市の数値はでないのか。2 点目はラジオを活用した PR とは、具体的にどういったものがあったのか。3 点目は手応えを感じた施策を教えていただきたい。
（事務局）まず 1 点目の連携中枢都市圏の基準値は、令和元年度の数値を基準値としている。小郡市のみの数字は内訳が出ないものがある為、確認して後日追加資料として共有する。
　2 点目のラジオ活用について、令和 5 年度は小郡市として年に 8 回枠を取り、季節ごとのイベント告知 PR を行った。
　3 点目の手応えを感じた施策について、手ごたえを感じているのは「七夕の里」と「鴨のまち」のプロジェクト。やはり小郡で有名なものというと、「七夕」や歴史のある「鴨」であり、この 2 つを柱として様々な事業に取り組んでいる。
　商工観光課にて、夏祭り等行うなかで、七夕小郡が浸透してきていると感じる。また、鴨は最近取組を始めたもので、鴨だしラーメンの制作や、鴨の料理を市内の料理店に作ってもらい、コンテストをやっており、小郡を多くの方に知ってもらうことを目的として、総合的に PR を行う必要がある。

（委　員）先ほどの就業者の増加数のところについて、実績値が単年度比較だと、累計目標に対する各年の進捗度合いが分からない為、経年でどれだけ目標が達成されたか分かるものがいい。
（事務局）有識者会議にて使用する書類の記載方法については再度検討し、後日共有を行う。また、連携中枢都市圏の事務局へも意見として伝える。

議題（２）第２期小郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

※事務局から、第２期小郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について説明

（委　員）空き家バンク登録件数について、令和 6 年度の目標 14 件に対して 5 件で進捗が停滞している要因があれば教えてほしい。また、空き家バンクの登録は市街化調整区域の物件じゃないとできないのか。
（座　長）当市の場合は市街化区域の物件は民間で流通しやすいため、流通しにくい市街化調整区域の物件を市が担うような制度になっている。その為なかなか登録件数が上がりづらいという背景がある。
（委　員）理解した。

（委　員）自治公民館を自主避難所として開設する協定の締結件数について、実績値が何もないが、取り組むことを諦めたのか。
（事務局）当初令和 3 年度まで、自主防災組織に対して補助制度を設けていたが、制度自体が令和 3 年度中に廃止された為、このような結果となった。
（委　員）理解した。しかし、備考に理由を記載してもらわないと、判断がつかないので追記をお願いしたい。

（委　員）移住相談件数について、相談件数はどういったところで受けたものか。
（事務局）当初、移住・定住イベントの来場者数などを想定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止となり、現在の窓口である経営戦略課でうけ

たものを計上している。

（委　員）企業版ふるさと納税について、メニューは 13 項目しかないのか。
（事務局）毎年度取組事業に応じてメニューが変わり、令和 5 年度は 13 項目である。

報告(1)小郡市の人口動態について

※事務局から、(1)小郡市の人口動態について説明

（委　員）就労を機に 20 代の転出が多い件について、自分は小郡市内で自営業を行っているが、新規で小郡市で自営業を行おうとすると、結構ハードルの高さを感じる。小郡市が推進している「七夕の里」や「鴨のまち」というのは、商売につながるイメージが湧かない事もあり、仕事を探している人や 20 代に対しての呼びかけとしては少し弱い表現である。もっと若い世代には刺さりやすく、小郡市が際立つようなキーワードを組み込むことが必要だ。一度、ターゲット層を集めてレクリエーション等を行い、意見収集してもいいのではないか。
（事務局）小郡市の特徴として、30 代の方が子供さんを連れて多く転入がみられる。その要因は教育や交通の利便性にあると考えている。今後は、小郡市総合振興計画の策定機会もあり、そういったときに今いただいたご提案のようなことが検討できればよい。
（委　員）他市の成功事例をもっと研究し、是非内外への発信をお願いしたい。

報告（２）第３期総合戦略の策定について
デジタル田園都市国家構想総合戦略（内閣府策定）について

※事務局から第３期総合戦略の策定およびデジタル田園都市国家構想総合戦略（内閣府策定）について説明。

（委　員）第 1 期、第 2 期の小郡市総合計画について、小郡市独自の目玉となる施策はあるのか、またどのように他市との差別化を行い、人の流れを作ろうとしていたのか。
（事務局）全国各自治体が総合戦略をつくるなかで、当市も地域課題の洗い出しを行い、第 1 期、第 2 期と策定したが、なかなか小郡独自の目玉となる施策までたどり着かなかった。
　今回第 3 期を作るにあたり、当然第 2 期までの課題を洗い出すとともに、新たな国の方針としてデジタルを取り入れたものを考えていく。その中で、小郡独自の政策取組については、検討していく必要がある。
（委　員）小郡市はちょっと外れているが、基本的に都市圏に準ずるような場所だと思う。しかし、若い世代で子育てしたい人たちが、何をもって小郡市を選ぶのかが全く見えてこない。福岡市へ 3、40 分圏で通勤、通学できるという、恵まれたポジションの中で、何かエッジを効かせ、子育て世代の人の流れを見据えた戦略を考えていただきたい。その為にも、先程も出たワークショップ等はとても有効である。若者だけでなく、10 年後をテーマに今小郡市に住んでいる人達と、どんな街になったら住み続けたいのか、話すことも大事である。

（座長）現状、少し受動的だという事も認識した。小郡市職員は30代が一番多い。市役所内でもプロジェクトみたいな形で参画させていくという事を検討しながら、改めて第3期は特色というものを出していかなくてはならない。

全体を通しての意見
（事務局）本日は色んなご意見ありがとうございました。いただいた意見についてはしっかり内部で検討を行う。

閉会